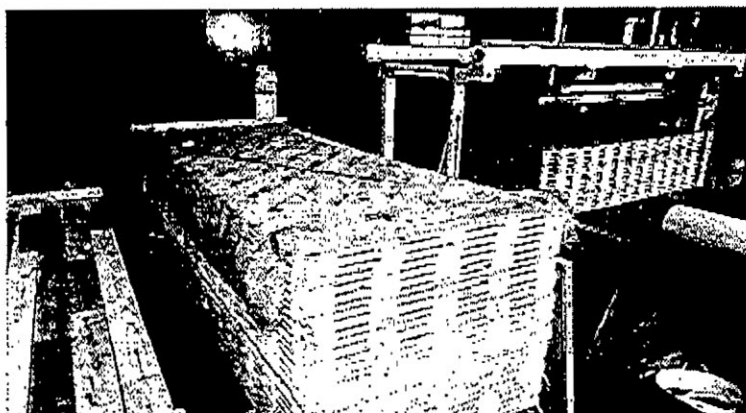


耐力面材アミパネルの販売拡充へ

今夏からネオシスエイワ取扱いで

相澤銘木



秋田材の有効活用を含め今後の展開が期待される

相澤銘木(秋田県能代市、網幸太社長)は、自社開発で国土交通大臣認定を取得した耐力面材アミパネルについて、販売体制を強化したことを明らかにした。

アミパネルの販売は、コバリン(東京都、千葉泰社長)や吉貞(群馬県高崎市、吉

田貞裕社長)が取り扱っていたが、今夏から新たにモルタル工法を行うネオシスエイワ

(京都府相楽郡、田中正則社長)が取り扱いを開始、西日本

向けの販売を行うこととなり、より全国的な販売強化の形が整った。

今秋に行われるシャパンホームショーでも、ネオシスエイワが展示し、アミパネルのPRを

行う。ネオシスエイワは、モルタル工法を行うなかで同製品の取り扱いを強化しており、施工面でのアミパネルの良さを伝えることが期待される。

アミパネルは、耐力壁でありながら通気層を兼ねるため、通気胴縁にかかわる作業等を軽減できる。また、耐力壁として十分な強度があるため、筋違が不要になる。施工面でも、アミパネルは隙間が空いていることから、風にあおられるにくい。そのため、実際の

作業現場では大きさを割に軽く感じられ、作業がしやすくなる効果もある。

この点について、検査実験が行われており、作業時間が大幅に短縮されることが実証されている。寸法は、長さ2900×幅900×厚さ27、長さ2700×幅900×厚さ27、同製品の国土交通大臣認定の壁倍率は、長さ2900が4・6倍、2700が4・0倍となっている。

さらに、関東で需要の多い長さ2500の製品開発が行われており、利用拡大が見込まれている。